

Title	表紙ほか
Author(s)	
Citation	日本外科宝函 (1935), 12(1)
Issue Date	1935-01-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/204249
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

ARCHIV
FÜR
JAPANISCHE CHIRURGIE
XII BAND, 1935

日 本 外 科 寶 函

第 12 卷

昭和10年

INOKO-ITO-VEREIE,
KAISERLICHE CHIRURGISCHE UNIVERSITAETSKLINIK,
KYOTO, JAPAN.

京都帝國大學醫學部外科學教室內

日 本 外 科 寶 函 編 輯 室

(猪子・伊藤兩教授記念會)

Berichtigung

In der Arbeit *Ozu* im Bd. XII, 1935, Ht. 6, Zeilen 15 und 16 von unten auf Seite 1480 sollen die Buchstaben II und III einander gewechselt sein.

日 本 外 科 寶 函

第 12 卷第 4 號掲載 (臨床) 脛骨反張 = 就テ 廖一雄

正 誤 表

頁	行	誤	正
1182	上ヨリ 13 行	先の性	先天性
1186	上ヨリ 18 行	視診ニヨツテハ既ニ	視診ニヨツテ既ニ
1190	下ヨリ 4 行	觀察サレガ	觀察サレルガ
1192	上ヨリ 17 行	又ハ Milch ハ	又 Milch ハ
1192	下ヨリ 4 行	過ギズ。結節	過ギズ, 結節
1193	下ヨリ 5 行	外骨腫大腿骨	外骨腫, 大腿骨
1193	下ヨリ 3 行	骨萎縮透明像	骨萎縮, 透明像
1194	下ヨリ 5 行	レ檢診	レ線檢診
1201	上ヨリ 3 行	徴候ノ 1 ヲデアル。軟骨	徴候ノ 1 ヲデアル軟骨

日本外科實函 第12卷 (昭和10年)

總 目 次

原 著

胸腔内瀦溜血液ノ運命ニ就テ……………	五 郎 川 正 己 (1)
胸腔手術後ノ感染及ビ其ノ豫防ニ關スル實驗的研究(第2回報告)	
開胸術ノ胸腔感染ニ及ボス影響……………	淺 井 東 一 (17)
増容反應ニイムペヂン ⁷ 現象(第2報)	
白色葡萄狀球菌ニ就テ……………	福 間 三 德 (41)
増容反應ニイムペヂン ⁷ 現象(第3報)	
エル・トール菌ニ就テ……………	" (54)
増容反應ニイムペヂン ⁷ 現象(第4報)	
脾脱疽菌ニ就テ……………	" (70)
増容反應ニイムペヂン ⁷ 現象(第5報)	
赤痢菌ニ就テ……………	" (83)
副腎機能ガ骨折治癒ニ及ボス影響ト諸種内分泌腺臟器トノ	
關係ニ就テ……………	麻 生 亮 一 (115)
血栓及ビ栓塞發生ニ關スル腸線及ビ絹糸結紮ノ差異ニ就テ……………	" (148)
唾液腺ノ内分泌機能ニ就テ	
(I) 耳下腺並ビニ顎下腺單獨剔出乃至結紮ガ糖新陳代謝ニ	
及ボス影響ニ就テ……………	淺 野 芳 登 (155)
(II) 耳下腺並ビニ顎下腺併合剔出乃至結紮ガ糖新陳代謝ニ	
及ボス影響ニ就テ……………	" (213)
(III) 耳下腺並ビニ顎下腺併合剔出乃至結紮ガ諸種	
内分泌臟器製劑ノ血糖作用ニ及ボス影響ニ就テ……………	" (255)
(IV) 耳下腺並ビニ顎下腺併合剔出乃至結紮ガ諸種	
内分泌臟器製劑ノ血糖作用ニ及ボス影響ニ就テ……………	" (298)
開胸手術後ノ感染及ビ其ノ豫防ニ關スル實驗的研究(第3回報告)	

- 胸腔感染ノ外科學的豫防法ノ效果ニ就キテ……………淺井東一 (427)
- 胸膜癒着生成ニ關スル實驗的研究
- 胸膜外_Lパラフィン¹充填法ニヨツテ胸膜癒着ヲ
- 招來シ得ルヤ?……………五郎川正己 (465)
- 増容反應_Lイムペデン¹現象(第6報)
- 淋菌ニ就テ……………福間三徳 (474)
- 増容反應_Lイムペデン¹現象(第7報)
- 普通大腸菌ニ就テ……………" (487)
- 増容反應_Lイムペデン¹現象(第8報)
- 腸_Lチフス¹菌ニ就テ……………" (502)
- 増容反應_Lイムペデン¹現象(第9報)
- _Lパラチフス¹A菌並ビニ_Lパラチフス¹B菌ニ就テ……………" (515)
- 副腎機能が骨折治癒ニ及ボス影響ト諸種内分泌腺臟器トノ
- 關係ニ就テ……………麻生亮一 (538)
- Locus minoris resistentiae ノ研究(第1報)
- 皮下結締組織及ビ軀幹筋ニ就テノ實驗結果……………吉田久士 (574)
- Locus minoris resistentiae ノ研究(第2報)
- Locus minoris resistentiae ノ感染ニ對スル同株菌_Lワクチン¹
- 及ビ_Lコクチゲン¹ノ豫防の差別……………" (604)
- Locus minoris resistentiae ノ研究(第3報)
- 感染ヲ豫防シ得ル_Lコクチゲン¹及ビ_Lワクチン¹ノ最小量ノ
- 確定……………" (620)
- Locus minoris resistentiae ノ研究(第4報)
- 感染豫防作用ニ關スル免疫元種族特殊性ノ吟味
- (附) 結核菌製劑ノ非特殊性抵抗力増進作用ノ有無……………" (639)
- 脂肪栓塞ノ腎臟機能ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究……………淺井東一 (737)
- 成熟睪丸ノ同種他家移植ト網狀織内被細胞系統填塞ノ影響
- 1) 對照移植實驗並ビニ_Lトリパン¹青液注入ノ場合……………淺野芳登 (768)
- 神經痛・神經痛樣疼痛・筋肉痛等ニ對スル_Lノボカイン・アドレナリン¹
- 注射療法ノ效果……………桑原下學 (787)
- 試験管内喰菌現象ニ及ボス人體淋巴肉腫ノ_Lイムペデン¹現象……………大隈義朗 (844)
- 食道筋質ニ就テ……………貴志周一郎 (851)

人食道, 胃噴門部ノ區劃性淋巴結節並ビニ惡性腫瘍轉移形成ニ就テノ2,3ノ考察……………	"	(862)
犬ノ食道及ビ胃噴門部ノ淋巴管, 就中其區劃性淋巴結節ニ就テ成熟辜丸ノ同種他家移植ト網狀織内被細胞系統填塞ノ影響	"	(878)
II) 墨汁並ビニ朱汁注入ノ場合……………	淺野芳登	(951)
人體淋巴肉腫ノ L イムペヂン r ヲ破却シテ試験管内最大喰菌子ヲ得ベキ好適煮沸時間ノ研究……………	大隈義朗	(968)
皮膚管ヲ利用スル腹部, 偽肛門造營ニ就テ……………	信岡德	(971)
輸尿管ノ膀胱内移植ニ就テノ實驗		
第1報 移植後10日迄ノモノ……………	田淵尹	(989)
第2報 移植後20日前後ノモノ……………	"	(1005)
肺炎雙球菌 L アナワクチン r ノ免疫學的研究		
第1報 肺炎雙球菌 L アナワクチン r ノ毒力ニ就テ 特ニソノ生・煮兩 L アナワクチン r ノ毒力ノ比較……………	横田宗正	(1014)
第2報 流血中對黃色葡萄狀球菌現象促進能働力ヲ指標トセル肺炎雙球菌 L アナワクチン r 中ノ L イムペヂン r ノ立證……………	"	(1025)
第3報 最大喰菌作用促進ニ必要ナル好適煮沸時間ノ確定……………	"	(1037)
第4報 抗腸 L チフス r 菌凝集素產生ニ及ボス肺炎雙球菌生・煮 L アナワクチン r ノ影響……………	"	(1047)
第5報 特殊自動免疫ノ獲得ヲ指標トセル肺炎雙球菌 L アナワクチン r 原・煮兩免疫元ノ差別……………	"	(1065)
EL-TOR 菌ニ於ケル L イムペヂン r ノ研究……………		
第1報 EL-TOR 菌モ亦タ L イムペヂン r ヲ產生スルヤ……………	"	(1083)
第2報 L イムペヂン r 破却ノ好適煮沸時間ニ就テ……………	"	(1094)
第3報 基液煮沸 L ワクチン r ト原 L ワクチン r トノ特殊凝集素產生程度ノ比較……………	"	(1104)
第4報 EL-TOR 菌 L コクチゲン r 及ビ同 L ワクチン r ノ同一毒力ノ下ニ於ケル特殊凝集素產生能働力ノ比較……………	"	(1119)
第5報 EL-TOR 菌肉汁培養ニ於ケル L イムペヂン r ノ吟味……………	"	(1136)
第6報 1週間肉汁培養 EL-TOR 菌ノ L イムペヂン r ヲ完全ニ破却スルニ必要ナル好適煮沸時間……………	"	(1145)

抗_Lイムペチン⁷抗體產生ノ疑問ニ就テ

流血中ノ抗黃色葡萄狀球菌特殊喰菌作用ニ於ケル

「イムペチン」現象……………横 田 宗 正 (1154)

黃色葡萄狀球菌ニ關スル補體結合反應_Lイムペチン⁷現象……………" (1166)

開胸手術ノ血液反應ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究……………淺 野 芳 登 (1263)

輸尿管ノ膀胱内移植ニ就イテノ實驗

第3報 術後40日乃至100日ノモノ……………田 淵 尹 (1282)

免疫元軟膏貼用皮膚局所ニ於ケル自動免疫獲得ノ理想的立證方法ニ

就テ……………吉 田 久 士 (1312)

人體骨折治癒經過中ニ於ケル血清内及ビ尿中 Ca 並ビニ P 含有量ノ

消長ニ就テ……………難 波 丈 夫 (1348)

植物神經ガ胃ノ分泌機能殊ニ胃酸並ビニ_Lペプシン⁷分泌ニ及ボス

影響ニ就テ……………赤 木 信 (1407)

幽門輪ガ胃ノ分泌機能ニ影響ヲ有スルカ (附) 幽門輪除去後十二指腸

粘膜ニ變化ガ現レルカ……………赤 木 信 (1421)

空腸潰瘍成因ニ關スル實驗的研究……………" (1424)

胃酸及ビ_Lペプシン⁷分泌ノ部位ト幽門部ノソレニ對スル意義……………" (1472)

經皮全身免疫ノ實驗的研究……………小 津 茂

第1報 黃色葡萄狀球菌_Lコクチゲン⁷ヲ靜脈内又ハ皮内ヘ注射

シタル場合ト軟膏トシテ皮膚ニ貼用シタル場合トノ

比較……………" (1479)

第2報 局所皮膚ヲ麻痺セシメタ場合ノ軟膏貼用ニヨル全身免疫ノ

獲得ニ就テ……………" (1489)

第3報 局所皮膚ヲ刺戟セル場合ノ軟膏貼用ニヨル全身免疫ノ

獲得ニ就テ……………" (1496)

第4報 軟膏ニ於ケル免疫元含量ノ決定ニ就テ……………" (1505)

第5報 腸_Lチフス⁷菌_Lコクチゲン⁷ノ靜脈内注射ト其ノ軟膏ノ貼用

トニヨル免疫效果ノ比較……………" (1513)

第6報 腸_Lチフス⁷菌_Lコクチゲン⁷2.5兊及ビ3.75兊ヲ含有スル

軟膏ノ貼用ト其ノ1.25兊ノ靜脈内注射トノ免疫效果ノ

比較……………" (1520)

第7報 腸_Lチフス⁷菌_Lコクチゲン⁷軟膏4兊及ビ6兊貼用ト靜脈内注射

1.25兊トニヨル三者ノ免疫獲得程度ノ決定ニ就テ

(附) 細胞内免疫凝集素ノ血中動員能力ノ比較……………" (1529)

- 第8報 腸_Lチフス₇菌_Lコクチゲン₇軟膏貼用ニヨリテ達成シ得ル
最大全身免疫程度ニ就テ " (1543)
- 第9報 _Lコクチゲン₇靜脈内注射ト_Lコクチゲン₇軟膏表皮貼用トニ
於ケル全身免疫獲得程度ノ決定的比較
(附) 全身性特殊自動免疫程度ノ數量的精密比較方法ニ
就テ " (1555)
- 溶血性連鎖狀球菌ニ關スル_Lワクチン₇, _Lアナワクチン₇及ビ
_Lコクチゲン₇ニ於ケル毒力及ビ抗原性能働力ノ比較研究 篠 田 正 芳 (1574)
- 溶血性連鎖狀球菌(溶連菌)_Lアナワクチン₇ニヨル_Lイムペデン₇
現象 篠 田 正 芳
- 第1報 溶連菌_Lアナワクチン₇ノ生成及ビ其ノ生・煮兩抗原ノ催喰菌性
抗原能力ノ比較研究 " (1587)
- 第2報 _Lイムペデン₇ノ完全破却ニ必要ナル好適煮沸時間ニ
就テ " (1616)
- 第3報 _Lアナワクチン₇乃至_Lアナコクチゲン₇ヲ以テセル家兎₇ニ
自動免疫獲得程度ノ相違 " (1626)
- 第4報 免疫ノ特殊性ニ就テ " (1662)
- 溶血性連鎖狀球菌ヨリ得タル各種免疫元軟膏ヲ以テセル皮膚局所
免疫ノ研究 篠 田 正 芳
- 第1報 _Lアナワクチン₇及ビ_Lワクチン₇生・煮兩抗原ノ免疫元性
能働力ノ比較 " (1680)
- 第2報 抗原含有軟膏貼用ニヨル局所皮膚ニ產生セラレタル催喰菌性
物質ハ_Lオプソニン₇ナリヤ " (1686)
- 第3報 _Lアナワクチン₇生・煮兩抗原ノ能働ノ比較 " (1690)
- 第4報 _Lアナコクチゲン₇軟膏ノ最大免疫能力ニ就テ " (1695)
- 開胸手術ノ赤血球沈降速度ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的
研究 淺 野 芳 登 (1709)
- 輸尿管ノ膀胱内移植ニ就テノ實驗(第4報) 川 淵 尹 (1729)
- 白色葡萄狀球菌_Lコクチゲン₇軟膏ヲ24時間貼用セラレタリシ皮膚局所ニ
於ケル *Locus minoris resistentiae* ノ感染免疫期間ノ吟味 古 田 久 士 (1745)

臨床及ビ臨床講義

- 腹膜結核症ノ外科的療法ニ就テ 濱 谷 軍 治 (338)

稀有ナル肝臓皮下破裂ノ1治験	濱田健吾	(666)
脛骨反張ニ就テ	廖一雄	(891)
バンチ氏病ノ1例	高安彰	(912)
脛骨反張ニ就テ(承前)	廖一雄	(1181)
特發性總輸膽管擴張症ノ1治験例	藤原紫郎	(1206)
潰瘍性胃癌ニ就テノ1考察	富永貢	(1348)
廻盲部假性粘液嚢腫	有本勤	(1758)
膽道炎ヲ伴ヘル膽石症	磯部喜右衛門	(673)
皮膚肉腫 Sarcoma cutis	鳥潟隆三	(675)
癌性乳腺炎 Mastitis carcinomatosa	磯部喜右衛門	(917)
直腸癌 Mastdarmkrebs	鳥潟隆三	(1213)
腎臓結核(Nierentuberculose)	磯部喜右衛門	(1766)

臨床診断ト手術所見

廻盲部假性粘液嚢腫ノ1例	有本勤	(353)
「ヘルニヤ」手術後ニ來レル慢性腹壁硬結	房岡隆三	(683)
Hygromヲ思ハシメタル肩胛關節部腫瘤	高橋齊	(684)
嚢腫様骨結核	盛彌壽男	(685)
廣汎ナル小腸捻轉症ノ臨床的診断ニ就テ	宇野兗	(933)
結核性腱鞘炎ノ1例	宇野兗	(934)
特發性脱疽ノ1異例	山中四郎	(935)
皮下腸管損傷ノX線早期診断ニ對スル1提案	生野正	(1225)
外傷ニ關聯セル腹部腫瘍	田島猪三夫	(1225)
大網膜淋巴腺結核ノ1例	高橋齊	(1225)
「イレウス」ノ1異例	山中四郎	(1225)
結核性副睪丸炎ト誤ラレタル血腫	田島猪三夫	(1225)
膽石症ノ手術ニ就テ	吉田久士	(1362)
興味アル腹部腫瘤	早島悟郎	(1362)
腸重積症ノ1例	町田速雄	(1362)
珍稀ナル胃腫瘍	山内達雄	(1773)
高度ノ腹水ヲ伴ヘル初期幽門癌	山内達雄	(1773)
原發性十二指腸空腸移行部癌腫ノ1例	山中四郎	(1773)

腸間膜淋巴腺結核ト誤ラレタル慢性蟲様突起炎 町 田 速 雄 (1773)

臨 床 瑣 談

Hygrom = 就テ 井 口 洋 平 (355)

肋骨々髓炎ノ1例 大 山 隣 三 (355)

腸間膜肉腫ノ1例 廖 一 雄 (356)

Sigma elongatum mobile ノ手術治験例 富 永 昌 (357)

外傷性十二指腸皮下破裂症例 (附) 急性腹膜炎ニ際シテ出現スル

尿中大腸菌ノ臨床診斷學の意義 盛 彌 壽 男

..... 小 野 榮 之 (358)

打撲ニ因ル鼠蹊脱腸腸管破裂ノ1例ニ就テ 竹 内 次 郎 (359)

幼兒性粘液水腫ノ1例 上 田 十 郎 (677)

悪性耳下腺腫頭蓋骨轉移ノ1例 永 井 亮 二 (677)

3 歳ノ男子ニ發生セル乳癌 宇 野 亮 二 (678)

脾脱疽ノ1例 田 島 猪 三 夫 (678)

奇怪ナル「フレグモニー」 盛 彌 壽 男 (679)

外傷性上皮嚢腫2例 武 田 實 彦 (680)

同名側半盲症ヲ伴ヘル脳疾患ノ3例 荒 木 千 里 (921)

胃及ビ盲腸ニ現ハレタル多發性癌ノ1例 石 野 琢 二 郎 (925)

稀有ナル空腸狹窄ノ1例 佐 々 木 義 孝 (926)

腎疾患ニ因スル Dérangement interne 佐 々 木 義 孝 (927)

淋疾性直腸狹窄症 房 岡 隆 三 (929)

骨折ノ非觀血の療法ニ就テ 吉 益 爲 則 (930)

小腦橋隅角部ニ向ツテ増殖セル小腦「グリオーム」ノ1例 荒 木 千 里 (1219)

腦下垂體腫瘍剔出例 吉 田 久 士 (1220)

外科的直腸疾患 X 線検査方法ノ1 考察 庄 山 省 三 (1222)

急性腹膜炎ニ對スル Enterostomie, Enterosygmoidostomie -

就テ 塚 原 仲 光 (1223)

幸運ナル経過ヲ取リツ、アル轉移性栓塞性靜脈炎 弘 重 充 (1223)

留彈ニ關スル研究補遺 根 岸 喜 代 助 (1224)

薦骨結核ヨリセル寒性膿瘍ノ1例 鈴 木 正 隆 (1356)

潰爛性口内炎ノ1 治験例 野 平 藤 雄 (1357)

Cysticercus cellulosae ノ1例	富	永	昌	(1358)
細菌毒素ニヨル心臓麻痺	小	牧	信夫	(1360)
異様ナル蟲様突起炎ト其ノX線像	永	井	亮二	(1360)
手術前處置トシテノ「アルカロイド」性鎮痛劑ノ應用	上	村	溫夫	(1361)
胃瘻穿孔ノ1例	上	田	十郎	(1361)
幼兒頭部混合腫ノ1例	松	木	軍太	(1770)
蟲様突起炎ト誤ラレタル「アスカリアージス」	山	本	俊介	(1770)
小腸護膜腫ノ1例	宇	野	充	(1771)
腎臓肉腫ノ1例	富	永	貢	(1772)
巨大ナル兩側腎臓腫瘍	生	野	正	(1773)

手術方法ノ研究

高度ノ腸膨滿ヲ作ヘル腸閉塞症ニ對スル治療方針	稻	本	晃	(360)
骨縫合2例	横	山	正夫	(360)
骨縫合補遺	横	山	正夫	(362)
若年者ニ來レル節骨竇瘤腫ノ1例	荒	木	千里	(930)
胃潰瘍穿孔2例ト其ノ手術方針ニ就テ	高	橋	幹夫	(1365)
Böhler 氏背椎骨折療法ノ1經驗	水	口	三郎	(1366)
Hacker 氏胃腸吻合術後ノ不快ナル經驗	稻	本	晃	(1367)
急性脾臓炎	町	田	速雄	(1368)
管テ部分的曠置術ヲ施サレタリシ廻盲部上行結腸ニ起リタル 重積症	山	内	達雄	(1779)

學 會

第39回近畿外科學會「エビパン・ナトリウム」靜脈麻醉ノ實驗的 研究(其ノ他52編)	(378)
滿洲外科學會 原發性横行結腸癌ノ手術例(其ノ他17編)	(700)
第40回近畿外科學會 工場ニ於ケル外傷ノ統計的觀察(其ノ他34編)	(1231)
第40回近畿外科學會(承前) 胃癌細胞ノ微細構造ニ就テ(其ノ他30編)	(1379)
第2回滿洲外科學會 嚔丸惡性腫瘍ノ手術々式ニ就テ(其ノ他18編)	(1781)

講 演

組織培養法ニ就テ	木 村 康	(370)
歐米視察談	伊 藤 弘	(373)
淋巴管ノ分布ト淋巴ノ循環	木 原 卓 三 郎	(695)
化學療法ニ就テ	内 野 仙 治	(1370)

綜 説

日光療法	土 屋 準 一	(362)
小兒外科ノ特質	由 茅 二 五 四	(687)

外 國 文 獻

一 般

Grashey = 依ル X線透視手術ニ就テ	(L. Drüner)	(405)
フイラトフ氏圓莖成形術ノ場合ニ於ケル過誤ト危険ニ就テ	(I. Lindenbaum)	(405)
保存血液血色素ノ抵抗能力ニ就テ	(A. F. Popova)	(405)
保存血ニ於ケル赤血球ノ抵抗	(M. Doepp)	(405)
血清「シヨツク」及ビ血清病ト其治療	(Arthur Buzello)	(406)
「チフス」毒素	(E. B. Giusburg)	(406)
百日咳菌ノ毒素ニ就テ	(E. F. Truschina)	(406)
實驗的鬱血性浮腫ニ於ケル淋巴球ノ態度ト組織ノ反應	(Leonhard Löffler)	(406)
微動作用ヲ利用セル新シキ綱帶及ビ縫合材料ニ就テ	(W. Linhart)	(708)
同一敗血症患者ニ於ケル頻回ノ「エヴィパン」麻醉	(J. Bartlakowski)	(708)
「クレゾール」蒸氣吸入ニヨル家兎ノ慢性石炭酸中毒	(Werner Laux)	(708)
炭酸瓦斯吸入ノ術後患者ノ肺ニ及ボス效果	(Henry K. Beccher)	(708)
血栓形成ト栓塞形成	(A. Feller)	(709)
血栓生成及ビ脱疽ニ對スル考察	(Fr. Rost)	(709)
手術局所以外遠隔箇所ニ起ル血栓形成ノ成因ニ就テ	(Karl Lenggenhager)	(709)
糖尿病性壞疽ノ處置ニ對スル外科學的見解	(E. Seifert)	(709)
組織鹽素缺乏ノ腸運動ニ及ボス影響	(Hermann Eitel, Arnold Loeser)	(710)
「ヂフテリー」菌保有者及ビ排泄者ニ對スル X線ノ應用	(E. D. Dubouji)	(710)

局處麻酔＝於ケル _L エヴィパン・ナトリウム ¹	(Georg Lotheissen)	936)
術後＝來レル進行性皮膚壞死ノ1例	(H. Küppers)	(936)
輸血ノ問題		(1249)
心臟機能検査法トシテノカウフマン氏利尿試験ノ評價	(S. Frei)	(1249)
局處麻酔＝關スル2, 3ノ原則	(L. Adam)	(1249)
組織栄養改善ノ1方法トシテノ _L ノボカイン ¹ 遮斷法	(A. W. Wischnewsky)	(1250)
瓦斯浮腫ノ處置＝就テ	(A. Jenckel)	(1250)
腹膜及ビ肋膜ノ嫌氣性感染＝就テ	(G. Gerlach)	(1250)
外科學＝於ケル特ニ油ト器械ノ乾熱滅菌	(A. Schinzel)	(1395)
防腐性創傷處置ノ問題＝就テ	(A. Sohmiat)	(1395)
局處の炎症及ビ無菌の手術後＝於ケルカウフマン氏反應＝就テ	(L. Fuia Eisen u. G. Szántó)	(1395)
靜脈内持續點滴注入法及ビソノ障礙	(J. Müller)	(1396)
術後ノ肺合併症＝就テ	(Desjacques)	(1396)
全身性骨疾患ト血液 _L カルシウム ¹ 量ノ意義	(J. Enselman)	(1396)
動靜脈性栄養障碍ノ血管撮影	(Ph. Frieri et A. Lévy)	(1397)
第1次性筋肉結核＝就テ	(F. Kazda)	(1397)
米國外科ノ進歩2, 3	(J. K. Narat)	(1789)
手術＝ _L ガーゼ ¹ ノ使用ヲ廢セヨ	(K. Büdinger)	(1791)
手術野ノ _L フォルマリン ¹ 消毒法	(E. Borchers)	(1791)
ヘツセ・フィラトフ氏法＝依リ治愈セル溶血性 _L シヨツク ¹ ノ1例	(A. Bogina)	(1792)
溶血性 _L シヨツク ¹ 治療ノ血漿輸注	(S. W. Heinatz u. N. I. Sokolow)	(1792)
保存血中ノ微毒病原體撲滅＝就テ	(Oganesjan, Salkind, Kudrjavceva)	(1792)
麻酔準備トシテノ _L レクティドン ¹ 假睡	(A. Stalman)	(1793)
後頭下穿刺 _L コフェイン ¹ 注入ニヨル呼吸麻痺ノ1治驗例	(M. Steinbrück)	(1793)
火傷ノ治療＝就テ	(H. Schrang)	(1793)
短波長及ビ超短波長療法＝ヨル火傷及ビ其ノ豫防法	(D. H. Kling)	(1794)
顔面丹毒＝對スル特殊抗血清及ビ紫外線治療ノ評價並ビニ比較	(H. J. Lavender)	(1794)
同時ニ同胞ニ現レタル骨肉腫＝就テ	(C. P. Roberts)	(1794)
同種皮膚移植法ノ疑問	(H. M. Trusler, & H. D. Cogswell)	(1794)

頭 部

腦腫瘍ノ知識及ビ治療	(W. Tönnis)	(407)
甲狀腺結核トバセドウ	(W. Sehmisch)	(407)

第3及第4腦室ノX線像	(Otto Dyes)	(711)
頭蓋腔氣腫ノ手術例	(Dereux et Swynghedauw)	(936)
頭蓋腔氣腫ノ2例	(Fribourg-Blanc, Lassale et Germain)	(937)
頭蓋腔氣腫	(E. Lucinesco et N. Falcoianu)	(937)
頭蓋損傷ノ際ニ於ケル葡萄糖負荷試験ニ就テ	(K. Scheele u. W. Beckerhoff)	(938)
篩骨板腦膜腫ニ就テ	(H. Olivecrona u. H. Urban)	(1251)
腦脊髄液排液法トシテノ反覆腰椎穿刺ニ就テ	(W. Sharpe)	(1251)
腦下垂體部腫瘍ノ經前頭ノ手術ニ就テ	(N. Guleke)	(1252)
シモンド氏病ノ療法	(L. F. Hawkinson)	(1795)
頭蓋骨折100例ニ就テノ研究	(D. E. Farley)	(1795)
バセドウ氏甲状腺腫手術後ノ術後反應ニ對スル瀉血ニ就テ	(C. Lang)	(1795)

胸 部

上部縦隔膜腔ノ骨成形ノ開放術	(Erich Lexer)	(407)
胸廓成形術ニ於ケル肋骨切除法ニ就テ	(Erwin Doruanig)	(408)
肺結核治癒ニ際シ安靜及ビ虚脱療法ノ意義	(N. Coryllos)	(408)
肺臓癌ニテ肺葉摘出後3年間再發ヲ見ズ妊娠ニ堪ヘタル1例	(J. Divis)	(408)
結核性膿胸ノ1手術法	(L. Eloesser)	(1398)
肺結核療法ニ於ケル Leotta 氏法ニ依ル肋間神經遮斷術	(F. Rabboni)	(1796)
肺臓充填法ノ發達及ビ將來	(W. Jehn)	(1795)
乳腺腫瘍ノX線診斷	(Max. Rito, P. F. Butler, E. Oneil)	(1796)

腹 部

胃腸穿孔ノX線検査ノ結果ニ就テ	(Georg Haüssler)	(408)
胃内ニ迷入セル腸粘膜トソレガ潰瘍發生ニ對スル意義ニ就テ	(Fritz Clar)	(409)
胃手術後ノ内臓頓ニ就テ	(E. Koch)	(409)
胃ノ病的變化重複撮影法ノ意義ニ關スルX線實驗的研究,		
特ニ胃癌ノ早期診斷ニ就テ	(Chichio Tamiya u. Shuei Nosaki)	(409)
腸重積ノ簡單根治的術式ノ提議	(W. Capelle)	(410)
廻腸下部ノ狹窄ヲ起ス潰瘍性炎症ニ就テ	(O. Kapet)	(410)
急性蟲様突起炎手術後死亡率減少ニツイテノ觀察		
	(Ernst E. Arnheim and Harold Neuhof)	(411)
蟲様突起炎ト誤診セル小兒期ノ稀有ナル急性腹部疾患ニ就テ		
	(Walter Obadalek)	(411)
隣臓壞死ノ成因ニ就テ	(J. Balo)	(411)

大ナル腹壁癰痕脱腸ノ手術.....	(A. W. Meyer)	(711)
腸管腹壁癒着ノX線診斷補助方法トシテノ腹壁反射ニ就テ.....	(C. Blumensaat)	(711)
小兒腹膜炎ノ類症鑑別ニ就テ.....	(Fr. Klages)	(712)
腰薦交感神經節狀索ノ手術ハ腹膜外ニ行フベキカ、洞腹膜的ニ行フベキカ？	(M. Kappis)	(712)
胃手術後ニ於ケル内嵌頓ニ就テ.....	(O. Schürch)	(712)
胃及十二指腸潰瘍穿孔ノ被蓋縫合後X線像ニ現レタル結果ニ就キテ(Alfons Lob)		(712)
良性胃腫瘍ト消化性潰瘍.....	(Felix Jaeger)	(713)
小腸間膜炎ト蟲様突起炎及ビ其ノ合併症ノ症候學，診斷學，臨床醫學ニ對スル 其ノ意義.....	(C. Levin)	(713)
慢性蟲様突起炎ノX線診斷.....	(A. Bejul u. Leopold Holst)	(713)
横隔膜下膿瘍.....	(Istrian v. Szacsay)	(714)
Courvoisier 氏症候ト假性 Courvoisier 氏症候.....	(E. Melchior)	(714)
外科的見地ヨリ觀タル非膽石性膽囊鬱滯ニ就テ.....	(R. Schrader)	(714)
外總輸膽管十二指腸吻合ノ指針ト結果ニ就テ.....	(G. Pototschnig)	(715)
黃體出血ニ就テ.....	(E. Bode)	(715)
股ヘルニアノ際ノ股管閉鎖ノ1方法.....	(V. Komann)	(715)
直腸癌根治手術經驗追加.....	(Felix Mandl)	(715)
急性全胃捻轉症.....	(R. R. v. Oppölzer)	(938)
膽石手術ノ新術式.....	(B. O. Pribram)	(938)
肝圓韌帶左側振子性膽囊嵌頓ノ1例ニ就テ.....	(W. Porzelt)	(939)
急性脾臟疾患ノ外科.....	(F. Bernard)	(939)
ラパロホスランブノ應用ニ就テ.....	(P. Clairmont)	(939)
上行結腸ヲモ作ヘル全小腸捻轉症.....	(W. Heise)	(940)
蟲様垂炎ト廻盲部ノ非特種性炎術性腫瘍ニ就テ.....	(Theodor Straaten)	(940)
慢性纖維性包裹腹膜炎ニ就テ.....	(H. Schaer)	(940)
腹壁「アクチノミコゼ」ノ1例ニ就テ.....	(K. Fuge u. E. Junghans)	(940)
所謂噴門痙攣ニ於ケル壁内神經網ノ病的變化ニ就テ.....	(W. Rieder)	(1252)
消化性潰瘍ノ癌變性早期診斷法.....	(A. L. Bloomfield)	(1252)
胃腸手術ノ異常所見及ビ合併症.....	(O. Maier)	(1253)
癌患者ニ於ケル「インドフェノール」青，酸素反應.....	(E. Sehart)	(1253)
局處貧血性腸狹窄.....	(H. v. Brücke)	(1253)
筋膜片移植ニヨル腹壁脱腸手術(紐狀成形術)(J. G. Knoflach u. H. v. Brücke)		(1254)

- 慢性便秘症 = 對スル大腸吻合術後 = 來レル巨大大腸形成 = 就テ... (P. u. Zender) (1254)
- 最近10年間ノ直腸癌根治手術 = 就テ (E. Gold u. O. Stritzko) (1254)
- 胃手術後ノ後出血ノ回避 = 就テ (H. Künz) (1398)
- Billroth II = 於ケル十二指腸斷端部縫合不全ノ療法 = 就テ (Mátyás) (1398)
- 腸潰瘍成因ノ實驗的研究 (S. Stelzer) (1398)
- 膽囊造口術後障碍ノ避ケエラル、原因 = 就テ (M. Matyas) (1399)
- 開腹術後殘留異物ノ運命 = 就テ、臨床例、70×7×7 cm 大ノ手術用風呂敷塊ノ腹腔
内殘留更ニ廻腸部ヘノ穿孔、30ヶ月後ノ外科的摘出及ビ治癒 (Béla v. Mezö) (1399)
- Laparophoslampe 照射後ノ状態ヲ顧慮セル場合ノ急性並ビニ慢性炎症疾患 =
於ケル腹膜ノ態度 (Otto Hoche) (1400)
- 結腸内ノ茸腫發生 = 就テノ提案 (R. R. v. Oppölzer) (1400)
- 蟲様突起炎ノ稀有ナ合併症 = 就テ (Fr. Kazda) (1400)
- 蟲様突起炎ノ際ノ腹腔内滲出物ノ超生體染色 (G. Molnár) (1401)
- パッシー氏手術ノ余ガ改良法ノ經驗 = 就テ (A. Adler) (1401)
- 胃手術後肺臟合併症ニ對スル1考察 (Erich Rappert) (1796)
- 胃潰瘍根治手術後10-17年ニ於ケル360人ノ健康状態 = 就テ (M. Friedemann) (1796)
- 瓦斯腹膜炎ノ問題補遺 (C. Lange) (1796)

腎泌尿器

- 腎固定術ノ1術式 (Stanischeff) (412)
- 洞腹の腎盂切開術ノ企テ (A. Gribnov) (412)
- 腎臟外科ニ於ケルレントゲン照射療法 (Schapiro) (412)
- 腎臟ノ皮様囊腫 (A. Fahri) (413)
- 内科的並ビニ外科的腎臟炎ニ於ケル腎被膜剝離術ノ價值 (Aurél v. Noszkay) (716)
- 先天性輸尿管擴張 = 就テ (Paul Blümel) (717)
- 腎臟X線照射ニヨル輸尿管瘻治療法 (H. Schloessmann) (717)
- 痔疾ノ注射療法
..... (K. Blond, W. Denk, E. Ebner, M. Gerasalem, F. Mandle) (1255)
- 腎臟痛 = 就テ (B. N. Cholzoff) (1255)
- 瘢痕性腎臟痛 (v. Hans-J. v. Brandis) (1255)
- 尿石穿孔 = 就テ (H. Hammel) (1256)
- 腎臟惡性腫瘍 = 對スル洞腹膜の腎剔出術 (L. R. Wharton) (1256)
- 膀胱瘻ノ閉鎖 = 就テ (E. F. Schmitz) (1256)
- 輸尿管膀胱入口ニ於ケル囊様性擴張ノX線像 = 就テ (E. Mingazzini) (1401)

兩側性腎臓結石ニ就テ	(A. R. Stevens)	(1401)
腎石摘出後ニ見タル遲發性出血	(O. Mikkelsen)	(1401)
結石性尿閉ノ醫學的及ビ外科學的處置	(G. F. Cahill)	(1402)
ホワイトヘツド氏痔核手術ノ經驗例	(G. Calinich)	(1402)
坐骨直腸窩不完全瘻ノ手術ニ就テ	(A. Læwen)	(1798)

脊 柱

脊椎骨ノ先天性癒合	(Lewis M. Overton)	(413)
頸部硬膜外腔ヘノ造影劑注入	(Arthur Schüller)	(414)
重篤ナル整骨不能ノ脊柱損傷ニ就テ	(Walther Kanert)	(717)
脊髓癒着性蜘蛛膜炎ノ手術ノ際ノ硬腦膜成形術ニ就テ	(E. Rehn)	(718)
椎間盤障害ノ臨床的意義ニ就テ	(B. Simons-Tena)	(941)
脊椎骨折治療ニ於ケル固定期間	(L. Böhler)	(1257)
9 歳ノ小兒ニ發生シタル脊髓血管腫瘍並ビニ新診斷學的症候群ニ就テ	(W. c Black & H. K. Faber)	(1798)

四 肢

坐骨神經痛ニ對スル腰薦部「ファセテクトミー」	(C. L. Mitschell)	(414)
跳躍關節ノ筋性關節固定法	(Hans Spitzzy)	(414)
藥劑ニ依ル脱疽ノ治療	(Alexander Adler)	(711)
陳舊性大腿骨頸部骨折ノ新手術々式	(P. C. Clouna)	(941)
長幹骨假關治療法トシテノ肋骨莢狀固定法	(F. Breuer)	(941)
大腿骨折ニ就テ	(Hans v. Brücke)	(942)
膝關節ニ及ベル高位脛骨々折ノ1新觀血的療法	(A. Kummer)	(942)
下肢血管疾患ノ描畫法	(M. Bernheim)	(1257)
四肢ノ動脈栓塞ノ治療	(G. W. Sceptam)	(1257)
麻痺足ノ治療法	(M. Herz)	(1257)
ドウブイトラン氏手指攣縮ノ外傷性發生ニ就テ	(H. Kohlmayer)	(1798)

骨 部

骨折ノ骨端融合遲延又ハ融合不能ノ場合ノ新處置	(M. Carter)	(415)
大腿骨頸部骨折ノ手術ニ就テ	(O. Voss)	(415)
骨折ノ治療方針		
...(Huber, F. Felsenreich, O. Frisch, L. Böhler, R. Demel, C. Ewald, E. Ranzi)		(1258)
脛骨結節ノ骨端炎ニ對スル自家骨片移植療法	(D. M. Bosworth)	(1258)
異物填入觀血的骨折治療ニ就テ	(G. Magnus)	(1402)
慢性骨髓炎ノ骨空洞ノ成形の閉塞ニ就テ	(J. P. Lord)	(1402)
骨壁内挿桿法ノ1變法	(W. Förster)	(1798)

人 名 索 引

原著ハ太字 臨床ハ斜字 學會ハ普通 雜ハ()

A

赤 木 信 (Akagi, S.) 1407, 1421, 1424
1472
淺 井 東 一 (Asai, T.) 17, 427, 737
淺 野 芳 登 (Asano, Y.) 155, 213, 255
298, 951, 1709
1263
麻 生 亮 一 (Aso, R.) 115, 148, 538
安 達 次 郎 1785
荒 木 千 里 398, 401, 921, 930, 1219, 1248
有 本 勤 353, 389, 1383, 1758

B

馬 場 重 孝 701

C

近 澤 秀 男 1242

E

江 崎 勇 1394

F

藤 川 真 房 383
藤 浪 修 一 1379
藤 田 小 五 郎 384, 404, 1233, 1234
1243, 1245, 1247, 1248
富 士 原 晴 雄 1240
藤 原 紫 郎 1206, 1385
福 田 浩 藏 1248
福 富 八 作 1245
福 間 三 德 (Fukuma, M.) 54, 70, 83, 487
502, 515
船 越 高 浪 378
房 岡 隆 三 929

G

五 郎 川 正 巳 (Gorokawa, M.) 1, 398, 465

H

濱 光 治 385, 397
濱 田 健 吾 666
濱 谷 軍 治 338
原 守 藏 401

速 水 義 雄 399
林 勝 長 1393
林 清 一 703
林 義 之 380
橋 本 長 利 387
波 多 腰 正 雄 361
日 野 徹 夫 400
姫 井 淑 1245
弘 重 充 383, 1233, 1386
星 野 行 嘉 1238

I

伊 庭 利 治 1380
井 口 洋 平 355
生 野 正 1225
池 谷 澄 夫 1784
今 村 忠 夫 1236
今 西 三 郎 383, 384
今 津 九右衛門 378, 1381
稻 垣 武 雄 399
稻 本 晃 360, 394, 1367
石 野 塚 二 郎 381, 925
石 山 福 二 郎 1381
磯 部 喜右衛門 673, 917, 1766
伊 藤 晃 702, 706
伊 藤 弘 373, 389
岩 永 仁 雄 1241

K

嘉 ノ 海 武 夫 386
笠 井 重 雄 396
笠 原 親 之 704
加 藤 清 一 郎 704
加 藤 恒 夫 1231
川 口 吉 榮 385, 397, 1393
河 村 謙 二 387, 1235, 1236
河 野 宗 喜 1231
革 島 悟 郎 1263
河 田 幸 一 郎 1246

河津祐弘	1390
梶原英夫	401
木田義雄	1379
木口直二	399, 400, 1242, 1247
木原卓三郎	(695)
菊川三男	1244
木村廉	(370)
貴志周一郎 (Kishi, S.)	851, 862, 878
熊川秀雄	700, 705
來須正男	398, 1236
草地幸友	380
桑原下學 (Kuwahara, K.)	787
小林依	1244
小牧信夫	1360
近藤銳矢	382

M

町田速雄	1233, 1364, 1368
増永恭次郎	382, 1385
松本軍太	1770
松村正重	1388
松永剛毅	391, 1241
松繁幸雄	382, 1392
松浦昌人	387
峰勝	379, 1380
三羽兼義	383, 387, 393, 1239
水口三郎	1365, 1390
溝手寛	1788
村田良平	380
武藤多作	702, 703
孟天成	703
望月成人	389
森健一	706
盛彌壽男	358, 678
森川廣吉	392

N

永井巖	1248
長井忠	1388
永井永二	677, 1360
中井愼一	700
中川正美	402
中村彌一郎	382
中森政一	399, 1235

仲田實三郎	404
中山清一	1237
中島英一郎	1391
中島佐	1238, 1239
中島鐵三郎	1285
並河誠三郎	1244
並川力	390, 397, 1380, 1392
難波丈夫 (Namba, T.)	1326
西尾英美	1393
根岸喜代助	1224
信岡德 (Nobuoka, T.)	971
野平藤雄	1357

O

荻野金八	1234
大原重之	403
大隈義朗 (Ohkuma, Y.)	385, 386, 844, 968
大沼定輔	1784
大田黒猪一郎	384, 385
大山隣三	355
岡江久義	387, 1232, 1233
岡村好幸	1391
岡本不二雄	702
岡本新一	1245
小野榮之	358
小澤凱夫	398, 400
小津茂 (Ozu, S.)	1479, 1489, 1496, 1505

1513, 1520, 1529, 1543, 1555

R

廖 雄	356, 891, 1181, 1246
-----	----------------------

S

櫻井雅四郎	382, 1248
佐々木義孝	398, 926, 926, 1386
佐藤信好	392
佐藤達	381
佐海藤太郎	1388
佐谷秀雄	382
島 肇	1383
嶋田秀雄	1243
篠田正芳 (Shinoda, M.)	1574, 1587, 1616
	1626, 1662, 1686, 1690, 1695
白壁武彌	396, 401, 1232
城義雄	381

庄 山 省 三	1222
東 海 林 吉 平	1248
庄 司 敏 彦	704, 706
末 廣 茂 逸	383, 394, 1392
菅 居 正 素	390, 397, 1235
杉 岡 善 一	1239
澄 川 龍 祐	1783
住 田 正 雄	1388
鈴 江 榮 生	401
鈴 木 正 隆	1356
相 馬 伴 臣	388, 389

T

田 淵 尹 (Tabuchi, S.)	989, 1005
	1282, 1729
立 井 宗 光	1384
立 川 敬 一	1241
高 橋 幹 夫	1365
高 橋 齊	1228
高 安 彰	912
瀧 田 健 次 郎	394
竹 林 弘	390, 403
竹 岡 友 文	1391
竹 内 次 郎	359
武 田 博	392, 1239
武 田 實 彦	680
谷 恒 雄	1240
谷 口 出	1392
田 島 猪 三 夫	678, 1227, 1230, 1386
土 屋 準 一	(362)
塚 原 仲 光	1223
角 田 英	388
筒 井 肇	393, 1234, 1240
富 永 貢	1348, 1379, 1394
富 永 宣 暢	1236, 1243
富 永 昌	357, 398, 1358

友 野 慶 尙	1239
鳥 潟 隆 三	675, 1213

U

上 村 一 夫	1361, 1392
上 村 溫 夫	1361, 1392
上 田 十 郎	677, 1361
内 野 仙 治	(1370)
宇 野 竟	678, 933, 934
牛 窪 武 男	399
宇 山 俊 三	385, 1233

Y

山 本 俊 介	1770
山 中 四 郎	935, 1229
山 田 評 吉	389
矢 野 四 郎	1787
安 井 武 司	380, 1385
安 武 幸 夫	703
矢 島 忠 久	1388
山 内 達 雄	1382
由 茅 二 五 四	(687)
横 田 浩 吉	390
横 田 誠	380
横 田 宗 正 (Yokota, M.)	1014, 1025, 1037
	1047, 1065, 1083, 1094
	1104, 1119, 1136, 1145
	1154, 1166
横 山 正 夫	360, 1384
吉 久 保 一 夫	394
吉 益 爲 則	929
吉 益 雄 太 郎	394
吉 岡 繁 雄	1248
吉 田 久 士 (Yoshida, H.)	574, 694, 620, 639
	1290, 1312, 1362, 1386, 1745
吉 武 信	403
弓 場 正 義	700, 705

第 11 卷第 6 號掲載藤浪論文正誤表

行	誤	正
12	Eall	Fall
6	sarkoma öse	sarkomatöse
下カラ 6	Ileoc ecalteil	Ileocaecalteil
Fig. 1. ノ下 3	Testmaterialieni	Testmaterialien.
22	50 cc	5.0 cc
7	mikrobitotisch	mikrobiotisch
Fig. 2 ノ下 3	auf des Impedin	auf das Impedin
Fig. 2 ノ下 6	nalbe	halbe

事物索引

原著ハ太字 臨床ハ斜字 學會、抄録、雜ハ普通

A

- 「アデノシン」物質
藥理的定量法.....1237
- 「アナコクチゲン」
——軟膏ノ最大免疫能力.....1695
- 「アナワクチン」
肺炎雙球菌「——」ノ毒力.....1014
肺炎雙球菌生・煮「——」ノ毒力比較.....1014
生・煮ノ免疫元性能動ノ比較.....1680
生・煮兩抗原ノ能動比較.....1690
- 「アルカロイド」
——性鎮痛劑.....1361

B

- 微毒病原體
保存血中ノ——.....1792
- バンチ氏病.....912
- バセドウ氏病
甲狀腺結核.....402
甲狀腺腫手術.....1795
- バツシニー氏
——手術ノ改良法.....1796
- Böhler 氏脊椎骨折療法.....1366
- 微動作用
繃帶、縫合材料.....708
- 防腐性創傷處置.....1395
- 膀胱
輸尿管ノ——内移植.....989, 1005, 1282
- 膀胱癭
——ノ閉鎖.....1256
- 分節的埋沒縫合法.....379
- ブロン・セカール氏麻痺.....1248

C

- Courvoisier 氏症候
假性——.....714
- 陳舊性大腿骨頭部骨折.....941
- 腸
——膨滿ヲ伴ヘル——閉塞症.....360

- 循環.....388
- 潰瘍成因.....1398
- 運動.....388
- 重積症.....1362
- 重積ノ根治術式.....410
- 腸管
皮下——損傷ノX線診斷.....1225
- ノ免疫.....1245
- 漿膜、色素吸收.....387
- 有澱色素.....388
- 腹壁癒着ノ腹壁反射.....711
- 「スポーツ」ニ因ル——皮下破裂.....700

- 腸間膜
——血管腫.....1383
- 淋巴腺結核ト誤ラレタル.....1773
- 慢性蟲樣突起炎.....1773
- 内腫.....356

- 腸狹窄
貧血性——.....1253

- 超短波長療法
——火傷、——豫防法.....1794

- 腸線
——ノ選擇.....1233

- 腸腰筋炎.....1392

- 直腸
——疾患X線検査.....1222
- 淋疾性——狹窄症.....929
- 癌.....1213
- 癌根治手術.....715, 1254
- 切斷端.....1381
- Cystecercus cellulosae.....1358

- 蟲樣垂炎
——ノ非特殊性炎衝性腫瘍.....940
- ノ統計.....701

- 蟲樣突起
——ノ位置.....702

- 蟲樣突起炎

——ノ合併症.....	1400
——類似ノ腹部疾患.....	1792
「アスカリ・アージス」.....	1770
——類似ノ結腸周囲炎.....	1792
——ト血清「ビリルビン」.....	706
——急性腹部疾患.....	411
——性蟲様突起間膜.....	1794
症候學, 診斷學, 臨床醫學.....	713
慢性——X線診斷.....	713
——トX線像.....	1360
滲出物.....	1401

D

疸	
——ノ考察.....	709
特發性——.....	935
藥劑ニ依ル——.....	711
液腺	
——内分泌機能 1. 2. 3. 4.	155—298
腸	
——蜂窩織炎.....	1793
——「ポリボージス」.....	700
腿骨	
——頸部骨折.....	415, 1395
——骨折.....	942
撥膝.....	382
子乳癌腫瘍.....	1789
腹的腎盂切開術.....	412
脈	
——榮養障礙ノ血管撮影.....	1397

E

エヴァイパン・ナトリウム「	
靜脈麻酔.....	378
局所麻酔.....	936
下	
針——.....	1794
症性胃運動麻痺.....	1380
エル・トール菌...1083, 1094, 1104, 1119, 1136, 1145	

F

ライトフ氏圓莖成形術.....	405
部	
——腫瘍.....	1362
外傷ニ關聯セル——腫瘍.....	1225

X線寫眞, 診斷.....	394
腹壁	
——「アクチノミコーゼ」.....	940
——炎症性腫瘍.....	397
——癰痕脱腸.....	711

副腎

——機能ガ骨折治癒ニ及ボス影響.....	115, 538
----------------------	----------

腹腔

寒冷, 溫熱ノ相違.....	394
----------------	-----

腹膜

急性——炎.....	358
急性——炎ニ對スル Enterostomie.....	1223
——ノ嫌氣性感染.....	1250
——結核症ノ外科的療法.....	338
Laparophoslampe 照明.....	1400
後——腔淋巴管腫.....	705
小兒——炎.....	712

腹膜炎

非穿孔性——.....	704
-------------	-----

「フレグモーネ」.....	679
---------------	-----

噴門

——癌ノ手術々式.....	398
——痙攣壁内神經網.....	1252

G

外傷

工場ニ於ケル——統計.....	1234
——性, 一時性糖尿.....	1232
——性「ヘルニア」囊内腸管破裂.....	1385
——性癲癇.....	1248

外總輸膽管十二指腸吻合.....	715
------------------	-----

「ガーゼタンボナーデ」ヲ廢セ.....	384
---------------------	-----

癌

胃ニ現ハレタ多發性——.....	925
盲腸ニ現ハレタ多發性——.....	925

癌性乳腺炎.....	917
------------	-----

癌腫

原發性十二指腸空腸——.....	1773
------------------	------

「ガス」浮腫.....	1250
-------------	------

「ガス」腹膜炎.....	1796
--------------	------

凝集素

皮膚ヨリノ——.....	1244
--------------	------

外科

近畿——學會	378, 1231, 1379
滿洲——學會	700, 1781
米國——進歩	1789
小兒——ノ特質	687
——學ニ於ケル油, 器械, 乾熱滅菌	1395
原發性惡性肝臟腫瘍	1385
原發性橫行結腸癌	700
限局性纖維性骨炎	1390
限局性漿液性脊髓膜炎	401
└ グラスローザ・ツエルツモール┐	
兒童ニ發生セル——	1236
グラウイ氏腫瘍	702

H

Hacker 氏胃腸吻合術	1367
肺	
——循環	382
——合併症	1396
肺炎菌└ コクチゲン┐	
——注入, 原發性兩側肺炎雙球菌性	386
肺炎雙球菌└ アナワクチン┐	1025, 1037, 1047
	1065
肺結核	
虛脫療法	408
肋間神經遮斷術	1796
敗血症	
└ エウイバン┐麻醉	708
肺臟	
——充填法	1795
——癌	408
白亞質齒牙腫瘍	401
脾脫疽	678
皮膚	
——移植法	1794
——管ヲ利用スル腹部, 偽肛門造營	971
進行性——壞死	936
——脾脫疽	1234
——肉腫	675
紐狀成形術	1254
└ ヒスタミナーゼ┐	
——ニ依ル└ ヒスタミン┐破壞	1238
高位腸閉塞ニ對スル└ ——┐	1239
急性腹膜炎ニ於ケル└ ——┐	1239

└ ヒスタミン┐	
└ ——┐中毒時, 白血球分布, 移動	1240
└ ——┐胃液	392
急性穿孔性腹膜炎	392
└ ——┐網狀織内皮細胞系統	393
└ ——┐無尿症	391
└ ——┐利尿障礙	1241
非膽石性膽囊鬱滯	714

ヘルニア

肢管閉鎖	715
└ ——┐術後ニ來レル慢性腹壁硬結	683
ホルネル氏症候群	1248
ホワイトヘッド氏痔核手術	1402
保存血液血色素ノ抵抗能力	405
Hygrom	355
——肩胛關節部腫瘤	684
百日咳菌毒素	406

I

胃

——噴門部ノ惡性腫瘍轉移形成	862
——噴門部ノ區割性淋巴結節	878
——噴門部ノ淋巴管	878
——潰瘍穿孔ト手術方針	1365
——手術後, 肺臟合併症	1796
——手術後ノ後出血	1398
——手術後ノ内嵌頓	409, 712
幽門輪ト——分泌機能	1421
——病的撮影法	409
——腸手術ノ異常	1253
被蓋縫合	712
内壓亢進ニ因ル血行障礙	1380
植物神經ト——ノ分泌機能	1407
——腫瘍	1773
急性——捻轉	938
良性——腫瘍	713
——ニ現ハレタ多發性癌	925

胃腸

——X線寫眞	408, 1379
--------------	-----------

胃癌

乳癌剔出後——ノ發生	1794
潰瘍性——	1348, 1379

—細胞ノ微細構造.....	1379
—穿孔.....	1361
—ノ早期診斷.....	409
前腹壁ヲ侵襲セル——.....	396
貴瘍	
—術後、脾臓瘻ノX線.....	1789
後	
—ノ部位ト幽門部ノ意義.....	1472
幽門部切除	
胃腸吻合法.....	1381
レウス ¹	
腸管痙攣.....	392
—ノ異例.....	1225
腹膨滿ヲ伴ヘル.....	394
ムペヂン ¹	
エル・トール菌ノ—— ¹ ノ吟味.....	1136
先—— ¹ 抗體產生ノ疑問.....	1154
ムペヂン ¹ 現象.....	1154, 1166
ンドフエノール ¹ 背	
後素反應.....	1253

J

—疾ノ注射療法.....	1255
「フテリー」 ¹ 菌	
—排泄者 } X線應用.....	710
—保有者 }	
下腺	
—腫頭蓋骨轉移.....	677
—固定術.....	412
—疾患.....	1386
—疾患 Derangement interne.....	927
石	
—摘出後、遲發性出血.....	1401
臓	
—惡性腫瘍.....	1256
—外科ノX線照射.....	412
—ノ皮様囊腫.....	413
兩側——腫瘍.....	1770
內科的, 外科的, ——炎.....	717
—肉腫.....	1770
臓結核.....	1766

腎臓結石	
—兩側性——.....	1401
腎臓腫瘍	
—幼兒ニ於ケル——.....	1386
腎臓痛.....	1255
—癰疽性——.....	1255
人體骨折治療經過中ニ.....	1348
人體淋巴肉腫ノ.....	968
上腹部急性外科の疾患.....	1788
上膊骨頸上骨折.....	1391
靜脈	
—榮養障礙ノ血管撮影.....	1397
—内注入法.....	1396
—内障礙.....	1396
縱隔膜	
—腔ノ骨成形の開放術.....	407
十二指腸	
Billroth II ニ於ケル——.....	1398
被蓋縫合.....	712
外傷性——皮下破裂.....	358
原發性——空腸.....	1773

K

開腹	
—術後、残留異物.....	1399
化學療法.....	1370
開胸	
—手術後ノ感染ト豫防.....	427
—手術後ノ血液反應.....	1263
—手術ノ赤血球沈降速度.....	1709
乾燥血輸血.....	1242
肝臓	
—皮下破裂.....	666
—血嚢腫.....	1385
火傷	
—超短波長療法.....	1794
—短波長療法.....	1794
—ノ治療.....	1793
下顎骨	
—移植.....	400
—切除術.....	399
下肢血管疾患.....	1257
廻腸纖維筋腫.....	703

廻腸部上行結腸.....	1779	——ノ考察.....	709
潰瘍性炎症.....	410	手術局所以外ニ起ル——.....	709
潰爛性口内炎.....	1357	血栓, 栓塞發生ニ關スル——.....	148
肝圓韌帶左側振子性膽嚢嵌頓.....	939	血液.....	
嵌頓性腹壁癰痕 _{ヘルニア}	394	—— _{カルシウム量}	1396
筋肉.....		——筋肉内注射.....	1242
— 一次性——結核.....	1397	血腫.....	
——痛, 注射療法.....	787	結核性副睾丸炎ト誤ラレタル——.....	1225
筋性關節.....	414	呼吸.....	
畸形.....		——麻痺.....	1793
踰趾——.....	1391	——運動, 腸運動.....	396
——性肋膜關節炎.....	1390	カウフマン氏反應.....	
_{クレゾール}		局所の炎症.....	1395
慢性石炭酸中毒.....	708	無菌の手術.....	1395
空腸.....		睾丸.....	
——潰瘍成因.....	1424	——惡性腫瘍.....	703
——狹窄.....	929	墨汁, 朱汁注入.....	951
結腸.....		成熟——ノ同種他家へ.....	768, 951
——ノ移動症.....	394	對照移植實驗 _{トリパン} 青液注入.....	768
——内, 茸腫發生.....	1400	硬腦膜成形術.....	718
頸部硬膜外腔.....	414	後頭蓋容囊腫性漿液性腦膜炎.....	401
頸骨.....		甲狀腺.....	
——反張.....	891, 1181	——結核, <u>バセドウ</u> 氏病.....	407
——結節ノ骨端炎.....	1258	黃體出血.....	715
結核菌.....		骨.....	
抗原性, 能動力.....	386	——縫合.....	360
抗結核菌抗体.....		——縫合補遺.....	682
肺ニ於ケル——.....	1245	——縫合方針, 方法.....	381
結核.....		——肉腫.....	1794
大網膜淋巴腺——.....	1225	骨盤.....	
囊腫様骨——.....	685	Pfühlungen.....	382
——性副睾丸炎ト誤ラレタル血腫.....	1225	骨壁内挿桿法.....	1798
一次性筋肉——.....	1397	骨折.....	
——性腱鞘炎.....	934	異物填入觀血的——.....	1402
——性副睾丸炎.....	1386	——非觀血的療法.....	930
——性十二指腸狹窄.....	1382	——ノ治療方針.....	1258
——性膿胸.....	1398	副腎機能ガ——治療ニ及ボス影響.....	115, 538
結石性尿閉.....	1402	關西地方風災ニヨル——.....	380
血清.....		——骨端融合遲延.....	415
—— _{シヨツク} ノ治療.....	406	——ノ新診斷法.....	381
——病ノ治療.....	406	——ノ融合不能.....	415
血栓生成.....	709	局所麻酔.....	

蒸溜水ニヨル.....	1232
旬廓	
——成形術, 肋骨切除法.....	408
旬腔	
——内溜溜血液ノ運命.....	1
——内異物.....	383
——感染ノ外科學的豫防法.....	427
——内免疫.....	1245
——手術後ノ感染及ビ豫防.....	17

旬膜	
——外, 「パラフィン」充填法.....	465
——癒着生成.....	465

急性	
——蟲様突起炎術後, 急性腎炎性無尿症.....	1789
——胃擴張ノ成立機轉.....	1380
——腹膜炎ニ對スル Enterostomie.....	1223
——化膿性外科疾患.....	1247
——感染性骨髓炎.....	404
——膝臓炎.....	1368
——膝臓壞死.....	706

L

ocus minoris resistentiae.....	574, 604, 620
	639, 1745

M

麻痺	
——足ノ治療法.....	1257
局所——.....	1249
「レクティドン」假睡.....	1793
慢性	
——蟲様突起炎.....	1773
——便秘症, 大腸吻合術.....	1254
——纖維性包囊腹膜炎.....	940

マッソン氏縱蟲

胸壁皮下層ニ遊走セル——.....	1233
-------------------	------

免疫

腸「チフス」菌「コクチゲン」注射貼用トノ	
効果比較.....	1513, 1520
腸管——.....	1245
注射, 貼用, 全身——獲得ノ〜.....	1555
胸腔内——.....	1245
麻痺, 軟膏貼用ノ全身——.....	1489
軟膏, ——元含量.....	1505

——元軟膏貼用.....	1312
軟膏貼用, 注射ノ——程度.....	1529
軟膏貼用, 全身——程度.....	1543
黃色葡萄狀球菌「コクチゲン」.....	1479
刺戟, 軟膏貼用ノ全身.....	1496
全身性ノ數量的比較方法.....	1555
——體產生地.....	386

メツケル氏憩室

——腸閉塞.....	706
------------	-----

盲腸

——多發性癌.....	925
網狀織内被細胞系統刺戟.....	1238

N

内分泌

副腎機能ガ——トノ關係.....	115, 538
唾液腺ノ——機能.....	155-298

内臓疾患

——ト術後疼痛.....	704
--------------	-----

軟膏

——貼用ニヨル〜「オプソニン」ナリヤ.....	1686
-------------------------	------

日光療法.....	362
-----------	-----

「ノボカイン」

——遮斷法.....	1256
------------	------

腦

同名側半盲症.....	921
——腫瘍.....	407

腦下垂體

——經前頭の手術.....	1252
——腫瘍剔出例.....	1248
——腫瘍.....	1220

膿胸

——ノI異型.....	383
結核性——.....	1398
成人急性——.....	383

腦脊髓

——液排液法, 反覆腰椎穿刺.....	1251
---------------------	------

囊腫

外傷性上皮——.....	680
廻盲部假性粘液.....	353, 1758
——樣骨結核.....	685

尿失禁症.....	1388
-----------	------

乳癌

3 歳ノ男子.....	677	栓塞形成.....	709
乳腺		先天性膝反張.....	1393
——腫瘍, X 線診断.....	1796	先天性輸尿管.....	717
——肉腫.....	1236	先天的拇指發育不全.....	1391
O		脂肪	
歐米視察談.....	373	——栓塞ノ腎臓ニ及ボス影響.....	737
横隔膜下膿瘍.....	714	——纖維内腫.....	1383
横隔膜神經		紫外線	
——捻除ノ用鉗子.....	1790	顔面丹毒, ——治療.....	1794
P		股關節炎.....	386
「ペプシン」分泌		試験管内喰菌現象ニ〜.....	844
——部位ト幽門部ノ意義.....	1472	指骨	
R		——ノ整形手術.....	381
肋骨		穿孔性壞疽性膽囊炎.....	705
——骨髓炎.....	355	篩骨竇癌腫.....	930
肋膜		篩骨板腦膜腫.....	1251
——ノ嫌氣性感染.....	1250	神經	
肋軟骨々折.....	1231	——痛, 注射療法.....	787
淋巴		——痛様疼痛, 注射療法.....	787
——ノ分布ト循環.....	695	上膊神經叢内ニ發生セル——纖維腫.....	1790
淋巴腺		心臓	
大網膜——結核.....	1225	細菌毒素ニヨル——麻痺.....	1360
淋疾		——貫通銃創.....	1791
——性直腸狹窄症.....	929	——機能検査法トシテノカウフマン氏	
リットル氏病		利尿試験.....	1249
——ニフエルステル氏手術.....	403	膝關節	
留彈.....	1224	——「オステオヒヨンドラマトーグス」.....	382
S		高位脛骨々折.....	942
シモンド氏病.....	1795	四肢	
——ノ療法.....		——動脈栓塞.....	1257
脊椎		薦骨	
——骨ノ癒合.....	413	——結核, 寒性膿瘍.....	1356
脊椎「カリエス」.....	704	水素「イオン」	
壓迫性脊髓炎.....	402	——濃度ノ變化.....	389
住田氏矯正法.....	1388	水腫	
——ノ統計.....	1793	粘液——.....	677
脊椎骨折		脾臓	
——治療, 固定期間.....	1257	急性——炎.....	1368
脊髓		急性——疾患.....	939
——炎.....	401	——壊死.....	411
——血管腫瘍 9 歳ノ小兒.....	1798	總腸間膜.....	1384
——癒着性蜘蛛膜炎.....	718	鼠蹊脱腸々管破裂.....	359

鼠蹊淋巴肉芽腫.....	1236
組織培養.....	370
組織鹽素缺乏ノ腸運動.....	710
植物神經	
胃ノ分泌機能ニ及ボス影響.....	1407
胃酸ニ及ボス影響.....	1407
「ペプシン」分泌ニ及ボス影響.....	1407
食道	
人——、惡性腫瘍轉移形成.....	862
——筋質.....	851
人——、區劃性淋巴結節.....	862
犬ノ——淋巴管.....	878
犬ノ——區劃性淋巴結節.....	878
小腸	
——護膜腫.....	1770
——捻轉症.....	933
小腸間膜炎	
症候學、診斷學、臨床醫學.....	713
小腸捻轉症.....	940
潰瘍性潰瘍.....	713, 1252
小腦	
「グリオーム」.....	1219
腫瘍	
——ノ亞鉛含有量.....	1235
手術	
——野ノ「フォルマリン」消毒法.....	1791
——「ガーゼ」ヲ廢セ.....	1791
T	
多發性淋毒性關節炎.....	1388
多發性石灰沈着症.....	1793
丹毒	
顔面——、特殊抗血清.....	1794
顔面——、紫外線治療.....	1794
單腎.....	398
膽囊	
——造口術.....	1399
膽囊腫瘍	
膽石症ト誤ツタ——.....	398
短波長療法	
——火傷.....	1794
——豫防法.....	1794

炭酸「ガス」	
——吸入、肺ニ及ボス効果.....	708
膽石	
——手術.....	938, 1362
膽石症	
膽道炎ヲ伴ヘル——.....	673
——ト誤ツタ膽囊腫瘍.....	398
——手術.....	1386
椎骨急性骨髓炎.....	403
椎間盤障害.....	941
轉移性栓塞性靜脈炎.....	1223
特發脫疽.....	1393, 1788
——患肢ノ血液.....	404
特發性腎痛例.....	398
特發性總輸膽管囊腫.....	1385
頭部	
幼兒——混合腫.....	1770
糖尿	
——病性壞疽ノ處置.....	709
「チフス」毒素.....	406

U

鬱血性浮腫	
淋巴球ノ態度.....	406
組織ノ反應.....	406

W

「ワクチン」	
生・煮ノ免疫元性能動ノ比較.....	1680
Locus m. i. ノ感染ニ對スル——ノ豫防.....	620
生・煮ノ免疫元性能動ノ比較.....	1680

X

X線	
蟲樣突起炎.....	1360
Ⅲ, IV腦室.....	711
——透視手術.....	405

Y

溶血性	
「シヨック」.....	1792
溶血性連鎖狀球菌	1574, 1587, 1616, 1626, 1662
	1680,
腰髓麻酔.....	1790
輸血	

不適合型——	1243
——敗血症	1243
——ノ問題	1249
屍體血——	1244
幽門	
——部ノ胃酸部位ノ意義	1472
——部ノ「ペプシン」分泌ノ意義	1472
幽門癌	
腹水ヲ伴ヘル——	1773
幽門輪	
——胃ノ分泌機能	1421
——除去後十二指腸粘膜ノ變化	1421
輸膽管	
特發性——擴張症	1205
游走腎	
——ト誤ツタ廻盲部假性粘液囊腫	398
輸尿管	
——膀胱入口、嚢樣性擴張	1401
——ノ膀胱内移植	989, 1005, 1282, 1729
——瘻治療法	717
Z	
坐骨直腸窩不完全瘻	1798

坐骨神經痛	
腰薦部「ファセテクトミー」	414
喘息管見	398
増容反應「イムペヂン」現象	
腸「チフス」菌	502
エル・トール菌	54
普通大腸菌	487
脾脫疽菌	70
白色葡萄狀球菌	41
「バラチフス」A・B菌	515
淋菌	474
赤痢菌	83
頭蓋	
——腔氣腫	937
——腔氣腫、手術	936
——骨折	1795
——損傷、葡萄糖負荷試験	938
頭蓋骨	
——肉腫	1781
耳下腺腫——轉移	677
全身性骨疾患	1396

Inhaltsverzeichnis

(Ausgegeben 1935)

ORIGINAL

Gorokawa, M., Ueber dem Schicksal des intrathorakal ergossenen Blutes.....	1
Asai, T., Experimentelle Untersuchungen ueber die Infektion und deren Verhütung nach den intrathorakalen Operationen.	
II. Mitteilung: Ueber den Einfluss der Thorakotomie auf die intrapleurale Infektion.....	17
Fukuma, M., Ueber die Impedinerscheinung bei der Volumination.	
II. Mitteilung: Beim Staphylococcus pyogenes albus.....	41
III. Mitteilung: Bei El-Tor-Cholera-vibrionen.	54
IV. Mitteilung: Bei Milzbrandbazillen.	70
V. Mitteilung: Bei Shiga- und Flexner-Dysenteriebazillen.....	83
Asoh, R., Experimentelle Untersuchung über Heilung von Knochenbrüchen bei Nebennierenfunktion und ihre Beziehung zu den anderen Drüsen der inneren Sekretion.	115
Asoh, R., Ueber den Unterschied zwischen Seiden- und Catgutligaturen betreffs der Entstehungsursachen von Thrombosen und Embolien.....	148
Asano, Y., Ueber die endokrine Funktion der Speicheldrüsen.	
I. Ueber den Einfluss der einfachen Exstirpation oder Unterbindung der Parotis und der Submaxillardrüse auf den Zuckerstoffwechsel.....	155
II. Ueber den Einfluss der kombinierten Exstirpation und Unterbindung der Parotis und der Submaxillardrüse auf den Zuckerstoffwechsel.....	213
III. Ueber den Einfluss der einfachen Exstirpation und Unterbindung der Parotis oder der Submaxillardrüse auf den Blutzuckerspiegel, zu dem es durch verschiedene aus den endokrinen Drüsen hergestellte Präparate kommt.....	225
IV. Ueber den Einfluss der kombinierten Exstirpation und Unterbindung der Parotis und der Submaxillardrüse auf den Blutzuckerspiegel, zu dem es durch verschiedene aus den endokrinen Drüsen hergestellte Präparate kommt.....	298
Hamatani, G., Ueber die chirurgische Behandlung der Bauchfelltuberkulose....	338
Asai, T., Experimentelle Untersuchungen über die Infektion und deren Verhütung nach den intrathorakalen Operationen.	
III. Mitteilung: Ueber die Wirkung der chirurgischen Prophylaxis gegen die intrathorakale Infektion.....	427
Gorokawa, M., Experimente zur Erzeugung von Pleuraverwachsung.....	465
Fukuma, M., Ueber die Impedinerscheinung bei der Volumination.	
VI. Mitteilung: Bei Gonokokken.	474

VII. Mitteilung: Beim <i>Bacterium coli commune</i>	487
VIII. Mitteilung: Bei Typhusbazillen.....	502
IX. Mitteilung: Beim <i>Bacillus paratyphi A et B</i>	515
Asoh, R., Experimentelle Untersuchung über Heilung von Knochenbrüchen bei Nebennierenfunktion und ihre Beziehung zu den anderen Drüse der inneren Sekretion.....	538
Yoshida, H., Erforschung über den sogenannten Locus minoris resistentiae.	
I. Mitteilung: Experimentelle Erzeugung des Locus minoris resistentiae in der Subcutis sowie der Rumpfmuskulatur durch mechanisches Trauma.....	574
II. Mitteilung: Der Unterschied zwischen der Vakzine und dem Koktigen von <i>Staphylococcus pyogenes albus</i> in der Verhütung der Infektion des experimentell erzeugten Locus minoris resistentiae mit denselben Kokken... ..	604
III. Mitteilung: Feststellung der minimalen, die Infektion des experimentell erzeugten Locus minoris resistentiae verhütenden Dosis der Vakzine bzw. des Koktigens betreffs <i>Staphylococcus pyogenes albus</i>	620
IV. Mitteilung: Die Prüfung über die Spezifität der die Infektion des Locus minoris resistentiae verhütenden Wirkung der Koktigene, sowie über das Tuberkelbazillen-Koktigen als ein allgemeines Verstärkungsmittel.	639
Hamada, K., Ein seltner Fall von subkutaner Ruptur der Leber.....	666
Asai, T., Recherche Expérimentale sur la Fonction Rénale influencée par l'Embolie Graisseuse.	737
Asano, Y., Ueber den Einfluss der Blockierung des Retikuloendothelialsystems auf die homoioplastische Transplantation des reifen Hodens. I. Kontrollversuch und Versuch mit Injektion von Trypanblaulösung.....	768
Kuwahara, K., Therapeutische Erfolge der lokalen Novocain-Adrenalin-Injektion bei Neuralgien, Pseudoneuralgien, Muskelschmerzen und dgl.....	787
Okuma, Y., Ueber die Impedinerscheinung betreffend Menschenlymphosarkom zur Frage der Ursache des Lymphosarkoms.....	844
Kishi, S., Ueber die Oesophagasmuskulatur.....	851
Kishi, S., Ueber die regionären Lymphdrüsen des Oesophagus und der Cardia des Menschen. Einige Beobachtungen über die Metastasenbildung der bösartigen Geschwülste des Oesophagus und der Cardia.....	862
Kishi, S., Die Lymphbahnen des Oesophagus und der Cardia des Hundes, besonders über ihre regionären Lymphdrüsen.....	878
Ryo, K., Ueber die Tibia recurvata.....	891
Takayasu, A., Ein Fall von Bantischer Krankheit.....	912
Asano, Y., Ueber den Einfluss der Blockierung des Retikuloendothelialsystems auf die homoioplastische Transplantation des reifen Hodens. II. Einspritzung von Tusche.	951

Okuma, Y., Ueber die optimale Abkochungszeit des native Extrakts des Menschenlymphosarkoms zur totalen Inaktivierung des darin enthaltenen Impedins und somit zur Gewinnung maximaler Antigenavidität.....	968
Nobuoka, N., Ueber die Anlegung eines verschliessbaren Anus praeternaturalis mit Hautkanal.	971
Tabuchi, S., Ueber die Uretereinpflanzung in die Harnblase.	
I. Mitteilung.	989
II. Mitteilung.	1005
Yokota, M., Die immunologische Erforschung über die Pneumokokken-Anavakzine.	
I. Mitteilung : Die Toxizität der nativen bzw. der abgekochten Anavakzine von Pneumokokken.....	1014
II. Mitteilung : Nachweis des in der Anavakzine enthaltenen Impedins in ihrer die normale Phagozytose von Staphylokokken fördernden Wirkung.....	1025
III. Mitteilung : Ueber die optimale Abkochungszeit der Anavakzine zur völligen Regenerierung ihrer Antigenavidität.....	1037
IV. Mitteilung : Der Einfluss der originalen bzw. der abgekochten Pneumokokkenanavakzine auf die spezifische Auslösung des gegen Typhusbazillen gerichteten Agglutinins im Blute der Versuchstiere.....	1047
V. Mitteilung : Der Unterschied zwischen der originalen bzw. der abgekochten Anavakzine in der Erwerbung der allgemeinen aktiven Immunität.....	1065
Yokota, M., Erforschung über das Impedin bei El-Tor-Vibrionen.	
I. Mitteilung : Produzieren El-Tor-Vibrionen auch das Impedin?.....	1083
II. Mitteilung : Ueber die optimale Abkochungszeit des nativen Antigens zur völligen Inaktivierung des darin enthaltenen Impedins.....	1094
III. Mitteilung : Vergleich der Mediumkoktovakzine mit der originalen ungekochten in der immunisatorischen Auslösung des spezifischen Agglutinins....	1104
IV. Mitteilung : Experimenteller Vergleich der Vakzine mit dem Kocktigen von El-Tor-Vibrionen unter Berücksichtigung der Toxizität und der immunisatorischen Erfolge.....	1119
V. Mitteilung : Ueber das Impedin bei Bouillonkulturen.....	1136
VI. Mitteilung : Ueber die optimale Abkochungszeit des Nativantigens zur totalen Regenerierung der Antigenavidität bei der Bouillonkultur der Erreger.	1145
Yokota, M., Zur Frage eines gegen das Impedin gerichteten Antikörpers, des Antiimpedins. Die Impedinerscheinung bei der spezifischen Phagozytose von Staphylokokken im zirkulierenden Blute der dagegen immunisierten Meerschweinchen.	1154
Yokota, M., Ueber die Impedinerscheinung bei der Komplementbindungsreaktion betreffend <i>Staphylococcus pyogenes aureus</i>	1166

Ryo, K., Ueber die <i>Tibia recurvata</i> (Fortsetzung).....	1181
Fujihara, S., Ueber einen operativ geheilten Fall von idiopathischer Choledochuserweiterung.....	1206
Asano, Y., Experimentelle Untersuchung des Einflusses der Thorakotomie auf die Blutreaktion.....	1263
Tabuchi, S., Ueber die Uretereinpflanzung in die Harnblase. III. Mitteilung.....	1282
Yoshida, H., Idealer experimenteller Nachweis der aktiven Immunität in den durch Koktigensalben vorbehandelten Hautbezirken bei Kaninchen.....	1312
Nanba, T., Ueber die Veränderung des Calcium und Phosphorgehalts im Blutserum sowie im Harn bei der Frakturheilung des Menschen.....	1326
Tominaga, M., Ein Beitrag zum Ulcuscarcinom des Magens.....	1346
Akagi, S., On the Influences of the Vegetative Nerves upon the Secretary Functions of the Stomach, Particularly of the Acid and Pepsin.....	1407
Akagi, S., Does the Pyloric Ring Possess Any Influence upon the Secretary Function of the Stomach? Is the Duodenal Mucosa Altered by Resection of the Pyloric Ring?.....	1421
Akagi, S., Experimental Studies on the Genesis of Peptic Jejunal Ulcer.....	1424
Akagi, S., The Part of the Stomach Secreting the Acid and Pepsin and the Significance of the Bars Pylorica Thereon.....	1472
Ozu, S., Experimentelle Erforschung über die Gewinnung allgemeiner aktiver Immunität mittels der kutanen Applikation der Immunogene als Salben. I. Mitteilung: Vergleich der intravenösen bzw. intrakutanen Injektion des Immunogens mit seiner äusserlichen Applikation als Salben in der Erzeugung des spezifischen Opsonins im zirkulierenden Blute.....	1479
II. Mitteilung: Ergebnisse der Immunisierung mittels der cocainisierten Immunogensalbe.	1489
III. Mitteilung: Ergebnisse der Immunisierung mittels der Immunogensalbe, vermengt mit <i>Oleum sinapis aethereum</i> als ein Reizmittel.....	1496
IV. Mitteilung: Ueber den optimalen Gehalt der Salben an Koktigen zur maximalen Erzeugung des spezifischen Opsonins im Blutserum.....	1505
V. Mitteilung: Vergleich der i. v. Einspritzung des Typhusbazillen-Koktigen mit seiner äusserlichen kutanen Applikation als Salbe in der Erzeugung des spezifischen Agglutinins im zirkulierenden Blute bei normalen Kaninchen....	1513
VI. Mitteilung: Vergleich der intraverösen Einspritzung des Koktigen in der Menge von 1,25 ccm mit der Applikation der Koktigensalben in der Menge von 2,5 ccm resp. 3,75 ccm als Koktigen.....	1520
VII. Mitteilung: Vergleich der i. v. Einspritzung des Koktigen mit seiner äusserlichen Applikation als Salben in der Erwerbung allgemeiner aktiver	

Immunität, sowie zum Vergleich des Grades der erworbenen allgemeinen Immunität.	1529
VIII. Mitteilung: Ueber die mittels Koktigensalben noch zu erreichende grösste allgemeine aktive Immunität.	1543
IX. Mitteilung: Ueber die Präzisionsmethode für die zahlenmässige Abstufung der spezifischen allgemeinen aktiven Immunität und den dadurch bewiesenen Grad der Immunität bei der Salbenimmunisierung.	1555
Shinoda, M., Erforschung der Vakzine bzw. der Anavakzine betreffend haemolytische Streptokokken.	1574
Shinoda, M., Ueber das Impedin in der Anavakzine von haemolytischen Streptokokken.	
I. Mitteilung: Nachweis des Impedins beim Kerzenfiltrat der Anavakzine sowie der zwar formalinisierten aber bei 0°C gelagerten korrespondierenden Vakzine.	1587
II. Mitteilung: Die optimale Abkochungszeit des Immunogens zur totalen Vernichtung des Impedins.	1616
III. Mitteilung: Der Unterschied zwischen der Anavakzine und dem Anakoktigen in der spezifischen aktiven Immunisierung der Kaninchenhoden.	1626
IV. Mitteilung: Ueber die Artspezifität der Anakoktigene.	1662
Shinoda, M., Erforschung der Hautimmunität bei den Salben mit verschiedenen Immunogenen aus haemolytischen Streptokokken.	
I. Mitteilung: Vergleich der Antigenavidität der Anavakzine mit der des Anakoktigens.	1680
II. Mitteilung: Ist der in den mit Immunogensalben vorbehandelten Hautstellen nachweisbare, spezifische Phagozytose fördernde Stoff das Opsonin? ...	1686
III. Mitteilung: Vergleich der Antigenavidität des nativen Filtrates der Anavakzine mit der des gekochten.	1690
IV. Mitteilung: Zur maximalen Erzeugung des spezifischen Opsonins in der Haut durch Applikation der Anakoktigen-Salbe.	1695
Asano, Y., Experimentelle Untersuchung des Einflusses der Thorakotomie auf die Senkungsgeschwindigkeit der roten Blutkörperchen.	1079
Tabuchi, S., Ueber die Einpflanzung des Ureters in die Harnblase.	
IV. Mitteilung.	1729
Yoshida, H., Erforschung über die Dauer der aktiven Immunität bei den durch die Staphylokokkenkoktigensalbe 24 Std. lang vorbehandelten Hautstellen.	1745
Arimoto, T., Sur un cas du Pseudo-myxome en région iléocoecale.	1758

Sachregister. (Band XII, 1935)

[本索引ハ歐文論文及歐文抄録ノミヨリ抄録ス]

A

Abkochungszeit (optimale)	
—Anavakzine	1037
bei El-Tor-Vibrionen	1094
bei Menschenlymphosarkom	968
haemolytische Streptokokken	1616
—Nativantigens	1145
El-Tor-Vibrionen Bouillokulturen	1145
Acid	1407, 1472
Agglutinen	
bei El-Tor-Vibrionen	1104
gegen Typhusbazillen	1047
im zirkul. Blute	1513
Anakoktigen	1626
Artspezifität des —	1662
Anakoktigensalbe	1695
Anavakzine	1025, 1690
abgekochte —	1065
Pneumokokken —	1014, 1047
von haemolyt. Streptokokken	
.....	1574, 1574, 1626
Antiimpedin	1154
Anus praeternaturalis	971

B

Bauchfelltuberculose	338
Bantische Krankheit	912
Blockierung	
—Retikuloendothelialsystem	768, 951
Blut	
intrathorakal ergossenes —	1
Senkunggeschwindigkeit der	
roten — körperchen	1709
—serum bei Frakturheilung	1326
—reaktion bei Thorakotomie	1263

C

Calcium	
im Blutserum	1326

im Harn	1326
Cardia	862
Choledochuserweiterung	
idiopathische	1206

D

Duodenum	
—mucosa	1421

E

El-Tor-Vibrionen	1083
—Impedin	1136
—Vakzin und Koktigen	1119
Embolien	148

F

Fraktur	
—heilung	1326

H

Haemolytische Streptokokken	1574, 1680
Hautimmunität	
—haemolytische streptokokken	1680
Harn	
bei Frakturheilung	1326
Hautkanal	
bei Anus praetern	971

I

Impedin	1154
bei El-Tor-Vibrionen	1083
bei Bouillonkultur	1136
bei Menschenlymphosarkom	844, 968
—erscheinung	54, 1154
—erscheinung bei der Komplement-	
bindungsreaktion	1166
in der Anavakzine	1025
in der Anavakzine von haemolytischen	
Streptokokken	1587
Immunogensalbe	1686
cocainisierten —	1489

Immunität	
aktive—	1321
aktive—	Hautstellen1745
allg. aktive—	1479, 1529, 1543
Grad der—	1555
spez. allg. aktive—	1555
Infektion	
—intrathorakalen Operationen.....	17, 427
Intrathorakale Operation.....	17, 427

K

Knochenbrüchen	
—Heilung.....inneren Sekretion	115, 538
Koktigen	1520
optimale Gehalt der Salbe an	1505
—Salbe.....	1321, 1520, 1543, 1743
Typhusbazillen—	1513
von El-Tor-Vibrionen.....	1119
Komplement	
—bindungsreaktion bei Impedinerschei-	
nung	1166

L

Leber	
—Ruptur	666
Locus minoris resistentiae.....	574, 604, 620, 639
Lymphdrüse	
des Oesophagus und der Cardia.....	862

M

Magen (Siehe S)	
Ulcuscarcinom des—	1348
Menschenlymphosarkom.....	844, 964
Metastase	
—bildung.....Oesphagus und der	
Cardia	862

N

Nebenniere	
—funktion bei Knochenbruchheilung...	115
Neuralgie	787
Niere (Siehe Ren)	

O

Oesophagus	
------------	--

—lymphdrüse	862
—muskulatur	851
Oleum sinapis aethereum	1496
Operation intrathorakale—	17, 427
Opsonin	1686
—im zirkul. Blute	1479
spezifische—	1695

P

Pepsin	1407, 1472
Peptic jejunal Ulcer	1424
Peptic jejunal Ulcer	
—Genesis.....	1424
Phosphat	
im Blutserum	1326
im Harn	1326
Pleuraverwachsung	465
Pneumokokken	
—Anavakzine	1014
abgekochte —Anavakzine	1047
Pyloric Ring.....	1421
Resection of—	1421

R

Ren (Niere)	
Fonction—	
Retikuloendothelialsystem	
—Blockierung.....	768, 951

S

Salbe	
Anakoktigen—	1695
äusserlichen Applikation als—	1479
—Immunisierung.....	1555
Immunogene als Salbe	1479
Staphylokokkenkoktigen—	1745
Typhusbazillen-Koktigen—	1513
Senkungsgeschwindigkeit	
—roten Blutkörperchen	1709
Speicheldrüse	155, 213, 225, 298
Staphylokokken	
—Koktignsalbe	1745
Stomach	

—Secretion	1472
Vegetative Nerves.....Secretary Func-	
tion of the——	1407

T

Thorakotomie	1709
auf die Bluteraktion	1263
Thrombose	148
Tibia recurvata.....	891, 1181
Toxizität	
Anavakzine von Pneumokokken.....	1014
Trypanblaulösung	
Blockierung durch ——	768
Tusche	
Blockierung durch ——	951

U

Ulcus	
——carcinom des Magens	1348

Ulcer

Peptic jejunal ——	1424
-------------------------	------

Ureter

——einpflanzung	989, 1005, 1282, 1729
----------------------	-----------------------

V

Vakzine

——haemolytischer Streptokokken	1574
von El-Tor-Vibrionen.....	1119
von haemolytische Streptokokken	1587

Vegetative Nerves	1407
-------------------------	------

Volumination

bei Bacterium coli commune.....	487
bei Bacillus paratyphi A et B.....	515
bei El-Tor-Cholera-vibrionen	54
bei Gonokokken	474
bei Milzbrandbazillen	770
bei Typhusbazillen	502